

Getting Start mdc (Mail Destination Checker)

Rev.0.1 2005/11/3

目次

Getting Start mdc (Mail Destination Checker).....	1
1.この文書の目的.....	1
2.What is mdc.....	2
3.How to install mdc.....	2
Requirement Environment.....	2
JRE Installation.....	3
Windows での JRE ダウンロードとインストール.....	3
4.Installation of mdc.....	5
Download CheckSMTP.jar.....	5
Create mdc configuration file.....	5
Execute mdc.....	7
5.Setup Mail Client.....	7
6.How to Use mdc.....	8
7.Restriction.....	8

1. この文書の目的

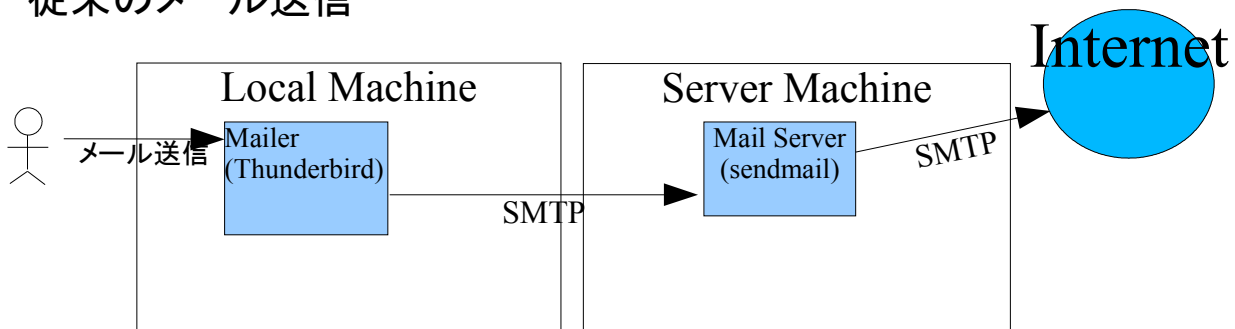
この文書では、mdc (Mail Destination Checker)をとりあえず使う方法について説明します。

2. What is mdc

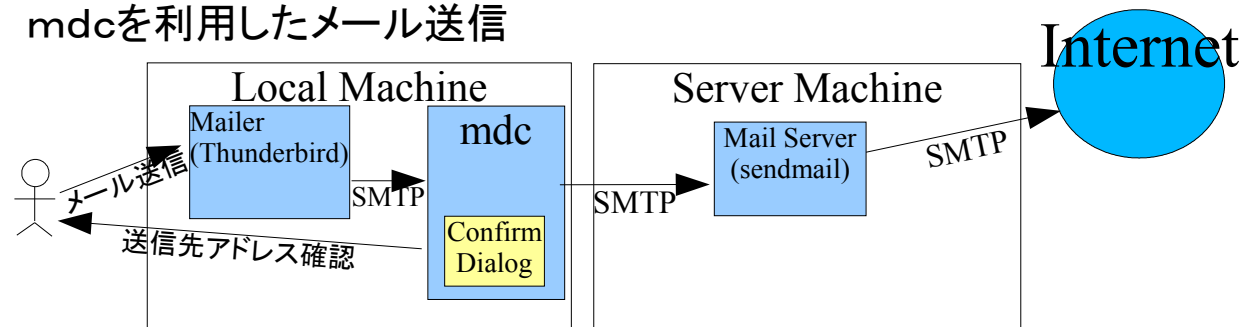
mdcとは、オープンソースでソースが公開されているメール送信時にメールの送信先を確認するソフトウェアです。LDAPと連携することにより、メールの送信先アドレスだけではなく、わかりやすい名前で確認を行うことが可能です。

Thunderbirdのようなメールクライアントと、sendmailなどのメールサーバのSMTP(Simple Mail Transfer Protocol)によるやりとりをプロキシすることによって実現しています。プロキシ方式を利用することにより、多くのメールクライアントに対応することが可能です。また、Javaにより実装されているので、Windowsに限らずLinuxなど多くのプラットフォームに対応しています。

従来のメール送信



mdcを利用したメール送信



3. How to install mdc

mdcを利用方法は以下の手順です。

1. 環境の確認
2. JRE のダウンロードとインストール
3. mdc プログラムのインストール(ダウンロード・設定ファイルの作成・起動)
4. メールクライアントの設定
5. 詳細を以下に説明します。

Requirement Environment

mdcを利用するためには、メールを利用できる事に加えて、以下の環境が必要です。

- Java 実行環境 JRE 1.4もしくは5.0

Windows および Linux で、JRE 1.4.1_05, 1.4.2_06, 1.5.0_05 を利用してテストしています。

- グラフィクス・スクリーン 640x480 ピクセル

Windows2000, WindowsXP, Linux Gnome2.2 でテストしています。

JRE Installation

mdc プログラムを実行するために、Java 実行環境(J2SE JRE)が必要です。

最近の HP や Dell から購入した Windows マシンだとプレインストール済みですが、国内のメーカーから購入したり古いマシンの場合には、インストールされていないので JRE をインストールする必要があります。

※Java 開発環境(J2SE JDK)には JRE が含まれているので、すでに JDK がインストールされている場合に、さらに JRE をインストールする必要はありません。

Windows, Linux 用の JRE は、Sun microsystems の Web からダウンロードが可能です。JRE 5.0 をダウンロードしてインストールしてください。

参考:

Linux (Red Hat Linux, SUSE Linux, JDS)でのダウンロードとインストール方法

<http://java.com/ja/download/help/5000010500.xml>

Windows での JRE ダウンロードとインストール

- <http://java.sun.com/j2se/1.5.0/ja/> に接続する



- 「ダウンロード」の「J2SE 5.0」に行く

J2SE 5.0
Java 2 Platform Standard Edition 5.0 のダウンロード

■ダウンロード

ダウンロードおよびインストールに問題がある場合は、ダウンロードに関するヘルプ (英語) を参照してください。 [English 英語版](#)

サポート対象のシステム構成

NetBeans IDE + JDK 5.0 Update 5 **J2EE 1.4 JDK 5.0 を含む**

J2SE Development Kit (JDK) には NetBeans IDE が含まれています。 NetBeans IDE は Java プラットフォームでアプリケーションを開発するための強力な統合開発環境です。 詳細はこちら
[JDK 5.0 Update 5 および NetBeans 4.1 バンドルのダウンロード](#)

Java 2 Enterprise Edition 1.4 SDK は EJB, JSP, XML, Web サービス API をひとつのパッケージでサポートします。 詳細はこちら
[J2EE 1.4 SDK のダウンロード](#)

JDK 5.0 Update 5 JVM テクノロジーを含む

J2SE Development Kit (JDK) は J2SE アプリケーションの作成をサポートします。 詳細はこちら

[JDK のダウンロード](#)
インストール手順 ReadMe リリースノート
サンの使用許諾契約 サン以外の使用許諾契約

JRE 5.0 Update 5 JVM テクノロジーを含む

J2SE Runtime Environment (JRE) を使うと Java アプリケーションを実行できます。 詳細はこちら

[JRE のダウンロード](#)
インストール手順 ReadMe リリースノート
サンの使用許諾契約 サン以外の使用許諾契約

- 「JRE のダウンロード」に行く

Sun Developer Network
Products and Technologies Technical Topics

Download

J2SE(TM) Runtime Environment 5.0 Update 5
For easier, more reliable downloads, try Sun Download Manager.

- Solaris 64-bit requires users to first install 32-bit.
- Information on **picking the right format to download**
- Installation instructions:
 - English
 - Japanese
- For Windows, choose "Windows Online Installation" for the quickest download and installation on a machine connected to the Internet. Typical download size is **7.1 MB**, which is the minimum download. The size may increase if additional features are selected.

NOTE: The list offers files for different platforms - please be sure to select the proper file(s) for your platform. Carefully review the files listed below to select the ones you want, then click the link(s) to download. If you don't complete your download, you may return to the Download Center anytime, sign in, then click the "Download/Order History" link on the left to continue.
For any download problems or questions, please see the Download Center FAQ.
How long will the download take? ⓘ

Required: You must accept the license agreement to download the product.
☒ **Accept** License Agreement | [Review License Agreement](#)
☐ **Decline** License Agreement

Windows Platform - J2SE(TM) Runtime Environment 5.0 Update 5		
Windows Offline Installation, Multi-language	jre-1_5_0_05-windows-i586-p.exe	15.67 MB
Windows Online Installation, Multi-language	jre-1_5_0_05-windows-i586-p-lfw.exe	237.80 KB

Linux Platform - J2SE(TM) Runtime Environment 5.0 Update 5		
Linux RPM in self-extracting file	jre-1_5_0_05-linux-i586-rpm.bin	15.35 MB
Linux self-extracting file	jre-1_5_0_05-linux-i586.bin	15.87 MB

1. 「Accept」をチェックして、「Windows Offline Installation, Multi-language」をダウンロードする。
2. JRE のインストーラである jre-1_5_0_05-windows-i586-p.exe を実行する。

参考: Windows 版 Java Runtime Environment (JRE) の手動ダウンロードとインストール方法

http://java.com/ja/download/help/win_manual.xml

以上で JRE のインストールは完了です。

4. Installation of mdc

Java 実行環境がインストールされたら mdc のインストールを行います。

手順は以下の通りです。

1. mdc のプログラムをダウンロードする。
2. mdc 設定ファイルを作成する。
3. mdc プログラムを起動する。

Download CheckSMTP.jar

まずは mdc プログラムのダウンロードです。Sourceforge.jp の mdc プロジェクトの「リリースファイル」<https://sourceforge.jp/projects/mdc/files/> より最新版のリリースファイルを任意の場所(「マイドキュメント」や「ホームディレクトリ」)にダウンロードします。

※ 2005/11/5 現在の最新版

リリース版は バージョン 0.1 [CheckSMTP-0.1.jar](#)

deploy 版は、CVS HEAD2005/2/23 [mdc.jar](#)

Create mdc configuration file

mdc の設定ファイル(.chechsmtp.properties)を作成します。

設定ファイルは、JRE のシステムプロパティ user.home の値のフォルダに置きます。

- Windows2000 では、default は、<システムドライブ>:\Document and Settings\<ユーザ名> (例: C:\Document and Settings\Administrator) です。
- Linux では、ホームディレクトリになります。

内容はテキストエディタにより編集します。以下の項目を設定することができます。

#	プロパティ名	内容	default	必須
1	org.jent.checksmtp.serverHost	メールサーバの名前 利用しているプロバイダーのメールサーバを指定してください。 例: mail.example.co.jp	mail	◎
2	org.jent.checksmtp.serverPort	メールサーバのポート番号 メールサーバのポート番号を指定してください。 通常は変更する必要はありません。	25	×
3	org.jent.checksmtp.port	mdc が利用するポート番号 メールクライアントが mdc に接続するポートを設定します。 ポート番号が衝突していない場合には変更する必要はありません。	8725	○
4	org.jent.checksmtp.ldap	LDAP 機能の On/Off LDAP 機能を利用する場合には、true に設定してください。	"false"	
5	org.jent.checksmtp.ldap.providerUrl	LDAP を検索する場合の LDAP URL LDAP サーバの URL を指定します。 例: ldap://certserver.pgp.com:389	ldap://localhost:389	
6	org.jent.checksmtp.ldap.baseDn	LDAP を検索開始するの DN を指定します。 例: ou=active,o=pgp keySPACE,c=us	C=JP	
7	org.jent.checksmtp.ldap.attribute	LDAP の検索結果で表示する属性を指定します。 Default では、名前を表示します。 例: cn title;lang-ja-jp 英語の指名と、日本語での役職を表示する。	cn	
8	org.jent.checksmtp.ldap.isSjis	LDAP サーバの漢字コード強制変換 このプロパティが true の場合、強制的に Shift JIS だと決めつけて処理を行います。Windows 用の Netscape 向けなどに利用されている LDAP サーバで LDAP の検索結果の漢字が文字化けした場合に利用します。	"false"	

#	プロパティ名	内容	default	必須
9	org.jent.checksmtp.enableRemoteConnect	他のマシンから mdc を利用許可 X11 エミュレータを利用した Windows 上のメールクライアントから X11 上で mdc を利用したい場合などに true にします。 通常は変更する必要はありません。	"false"	×

mdc の設定ファイル(.checksmtp.properties)のサンプル

```
org.jent.checksmtp.serverHost=mail.example.co.jp
org.jent.checksmtp.serverPort=25
org.jent.checksmtp.port=8725
org.jent.checksmtp.ldap=true
org.jent.checksmtp.ldap.providerUrl=ldap://certserver.pgp.com:389
org.jent.checksmtp.ldap.baseDn=ou=active,o=pgp keySPACE,c=us
org.jent.checksmtp.ldap.isSjis=false
org.jent.checksmtp.ldap.attributes=cn title;lang-ja-jp
org.jent.checksmtp.enableRemoteConnect=false
```

Execute mdc

mdc を起動します。

Windows では、ダウンロードした CheckSMTP.jar(もしくは mdc.jar)をダブルクリックするだけで起動が完了します。

Linux では、bash などのコマンドプロンプトで

```
$ java -jar CheckSMTP-0.1.jar &
```

によりプログラムを起動します。

mdc は、デーモンなので、起動しても何もスクリーンには表示されません。起動の確認は、Windows でしたらタスクマネージャー、Linux では ps コマンドにより確認してください。

5. Setup Mail Client

メールクライアントの設定の変更が必要です。

通常、メールクライアントは、直接プロバイダーのメールサーバに対してメールを送信するように設定されているので、それを mdc 経由に変更するように設定する必要があります。

以下では Thunderbird を利用している場合の例を示します。各メールクライアントの設定方法につ

いては、それぞれのマニュアルを参照してください。

1. Thunderbird を起動する。
 2. メニューの「Edit」の「Account Setting」を開く。
 3. 「Outgoing Server (SMTP)」タブを開く
 4. 「Server Name:」を「localhost」に変更
 5. 「Port」を「8725」に変更 この値は、mdc の設定ファイル(.checksmtp.properties)で org.jent.checksmtp.port に設定した値です。default は、8725 です。
- 以上で、メールクライアントが mdc 経由でメールを送信ようになります。

6. How to Use mdc

メールクライアントからメールを送信すると、確認のダイアログが表示されます。



このサンプルでは、takuya@page.on-o.com にメールを送信しようとしているので、宛先のアドレスを確認して、OK ボタンを押すとメールは送信されます。CANCEL ボタンを押した場合には、メールの送信はエラーとなり、メールは送信されません。

※LDAP と連携していて、該当のメールアドレスが検索できた場合には、メールアドレスの後に名前(mdc 設定ファイルの org.jent.checksmtp.ldap.attributes でしてされた属性値 default=cn)が表示されます。

7. Restriction

mdc は、まだ開発途中ですので以下のような制限事項があります。

- SSL や、TLS による暗号化された SMTP 通信には対応していません。

- 終了は、タスクマネージャーや kill コマンドで行ってください。
- 確認ダイアログのサイズを変更しても、ダイアログ中のリストのサイズは変わりません。

以上